

平成 27 年度第 4 四半期 財団せせらぎ 助成金使用報告書

所属	あけぼの総合事務所	職名	特許技術者	助成金額	300,000 円
氏名	田上晃庸	印 メール アドレス	akitsune@tagami-foto.com		
研究課題（申請書に記入した内容を記入すること。）					
謙虚な気持ちの大切さを問うこと					
助成金使用実績の概要（日本語で記入すること。図・グラフ等の記載は必須ではない。）					
<p>平成 28 年 4 月 29 日から 5 月 8 日までの期間、京都 知恩院和順会館内にあるギャラリー和順にて、仏像をモチーフとした作品展を開催した。会場には、B0 サイズの亚克力作品 9 点に加え、屏風作品を 2 点展示した。（会場の様子は下記リンク参照）。助成金により、これらの作品制作を行った。</p> <p>作品展へは約 600 人の方にご来場頂いた。また、一般の方に加えて、知恩院の僧侶の方にも多数ご来場いただいた。</p> <p>その中で、多くの来場者の方と作品についてお話させて頂くと共に、今の時代をどのように考えるか、という点について意見を伺うことができた。</p> <p>作品については、多くの方に好意的な印象を持っていただけた。仏像という信仰の対象に対し、自分なりの解釈を導入することに不安があったが、普段から仏像を鑑賞もしくは接する機会が多い方ほど、好意的に評価して頂けた。単に仏像を撮影しただけの写真とは違い、仏像の良さを引き出していると感じて頂くことができた。</p> <p>また、なぜ私が仏像に着目したか、という点について議論することができた。私は、合理的な判断の重要性を理解しつつも、それを越えた存在を意識することで、合理的な判断のバックグラウンドとなる倫理を強化できるのではないかと話した。また、日本の伝統とは何か、を改めて見つめることで、現代の我々が共有している倫理を問い直すきっかけになるのではないかと説明した。</p> <p>これに対し、多くの方から共感を得ることができた。私は宗教家ではないため、宗教的な議論をすることはなかったが、現代社会に対し、漠然とした不安を感じておられる方が多いことに気づいた。また、時代の変化に対し、伝統や信仰といった目に見えない価値に対する向き合い方を模索している方も多く見受けられた。そのような目に見えない価値を尊重しつつ、合理的な考えに基づいて生きることの重要性を共有できたことは、非常に有意義であった。</p> <p>今回の展示をきっかけとして、新たに東京都港区芝にある大本山増上寺様とご縁を得ることができた。そして、増上寺様所蔵の尊像を用いて新たに作品を制作すると共に、2017 年 1 月 1 日から 2 月 5 日にかけて、増上寺宝物展示室のロビーにて個展を開催する運びとなった。次回の展示においても、今回の展示と同様の研究に取り組み、一人でも多くの方とよりより社会に向けた議論を望むものである。</p>					
助成金を使用した成果に関する発表（インターネットに公表されている場合は URL を記載すること。）					
発表者氏名 (著者・講演者)	発表課題名 (著書名・演題)	発表学術誌名 (著書発行所・講演学会)	学術誌発行年月 (著書発行年月・講演年月)		
田上晃庸	作品展知恩院和順会館 Flow 道 田上晃庸	http://www.tagami-foto.com/project/ex1_jp.html	2016 年 10 月 10 日		